
インプラントボディの印象採得



システムの術式

1. 2次手術

- ① 口腔内洗浄、消毒、浸潤麻酔
- ② 歯肉粘膜・骨膜の切開・剥離
- ③ カバースクリューの撤去

ヘクスドライバーを用いてカバースクリューを取り外します。

ポイント カバースクリューの上に骨が出来て外せない場合があります。その際はラウンドドリルにて骨を除去して下さい。

ポイント ドライバーを強めに差し込むことで把持され、落下防止になります。

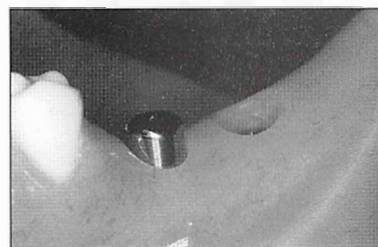
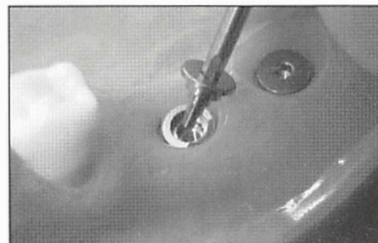
- ④ ヒーリングアバットメントの連結

ボディ内部を十分に洗浄したのち、ヘクスドライバーにてヒーリングアバットメントを連結します。連結期間は、粘膜の治癒状態により異なります。

ポイント 連結時は強く締めすぎないように注意して下さい。

- ⑤ 縫合

良好な粘膜治癒が行われるように、粘膜の形態を整えて縫合します。



2. 印象採得・模型の製作

印象手順には **A** クローズドタイプと **B** オープンタイプがあります。

A クローズドタイプ 印象採得・模型製作手順

- ① ボディトランスファーキャップの連結

ボディトランスファーキャップクローズドタイプをインプラントボディに装着し、ヘクスドライバーにて固定します。

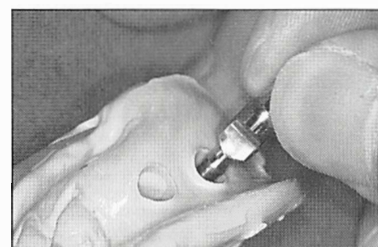
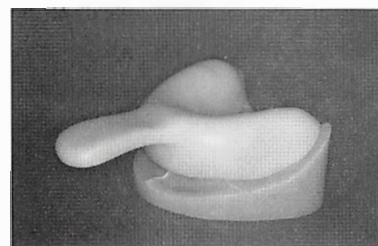
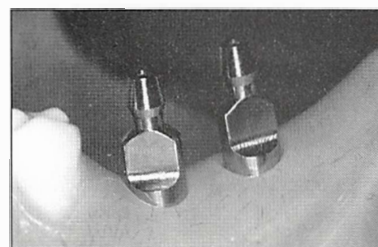
- ② 印象採得

シリコーンラバー印象材を用い、あらかじめ用意した個人トレーまたは既製のトレーで印象採得を行います。採得後は、口腔内に残ったボディトランスファーキャップクローズドタイプを取り外します。

ポイント トランスファーキャップを撤去する際、上部のネジを緩めるだけでボディより撤去する事ができます。

- ③ 模型の製作

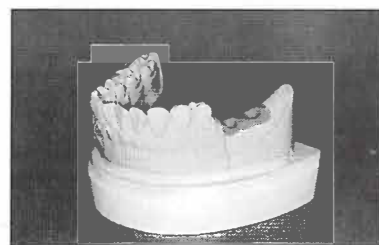
取り外したボディトランスファーキャップクローズドタイプをインプラントアナログに装着し、印象内に戻します。その後、超硬石膏を注入して模型を製作します。



④ 模型の完成

石膏硬化後、上部スクリューをヘクスドライバーにて緩め、ボディトランスファーキャップクローズドタイプを撤去し作業模型が完成します。

ポイント 辺縁歯肉の形態を保持したガム模型をお勧めします。審美性の重要な部分やマージンが歯肉縁下となる場合は特に重要となります。

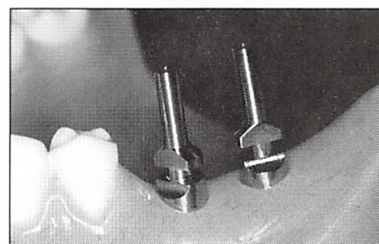


B

オープンタイプ
印象採得・模型製作手順

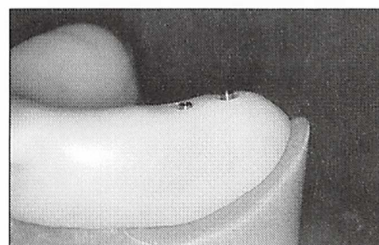
① ボディトランスファーキャップの連結

インプラントボディにボディトランスファーキャップオープンタイプを装着し、上部スクリューをヘクスドライバーにて固定します。

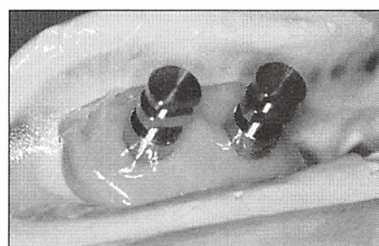


② 印象採得

印象採得前に、上部スクリューが個人トレーの開口部に適合していることを確認します。その後、シリコンラバー印象材を用い印象採得を行います。印象材硬化後、上部スクリューを完全に緩めてからトレーを口腔内から撤去します。

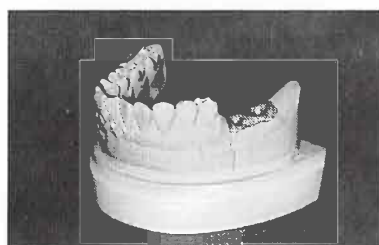


ポイント 口腔内から印象を撤去する際、上部のネジを緩めるだけでボディより撤去することができます。



③ 模型の製作

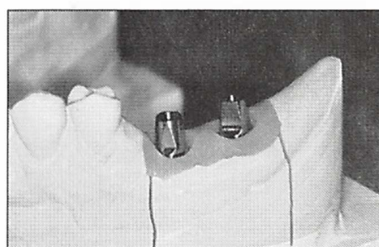
インプラントアナログを印象内のボディトランスファーキャップオープンタイプに装着し、上部スクリューにて固定します。その後、超硬石膏を注入して模型を製作します。



④ 模型の完成

石膏硬化後、上部スクリューを緩め、トレーを取り外し作業模型が完成します。

ポイント 辺縁歯肉の形態を保持したガム模型をお勧めします。審美性の重要な部分やマージンが歯肉縁下となる場合は特に重要となります。



3. アバットメントの選択

- ① 歯肉の厚み、対合歯とのクリアランスを計測し、症例に最も適したアバットメントを選択します。
- ② 選択したアバットメントを症例に合わせ形態修正を行いません。

【各アバットメントの修正箇所】

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ● ショルダードアバットメント | ⇒ 対合歯とのクリアランス |
| ● テーパーダアバットメント | ⇒ マージン形成、対合歯とのクリアランス |
| ● ブリアングルダアバットメント | ⇒ マージン形成、対合歯とのクリアランス |
| ● スクリューリテンドアバットメント | ⇒ 修正箇所なし |

★形態修正後、各アバットメントの上部構造製作方法に従って最終補綴物を製作します。製作方法は、各アバットメントのマニュアルをご参照下さい。

